

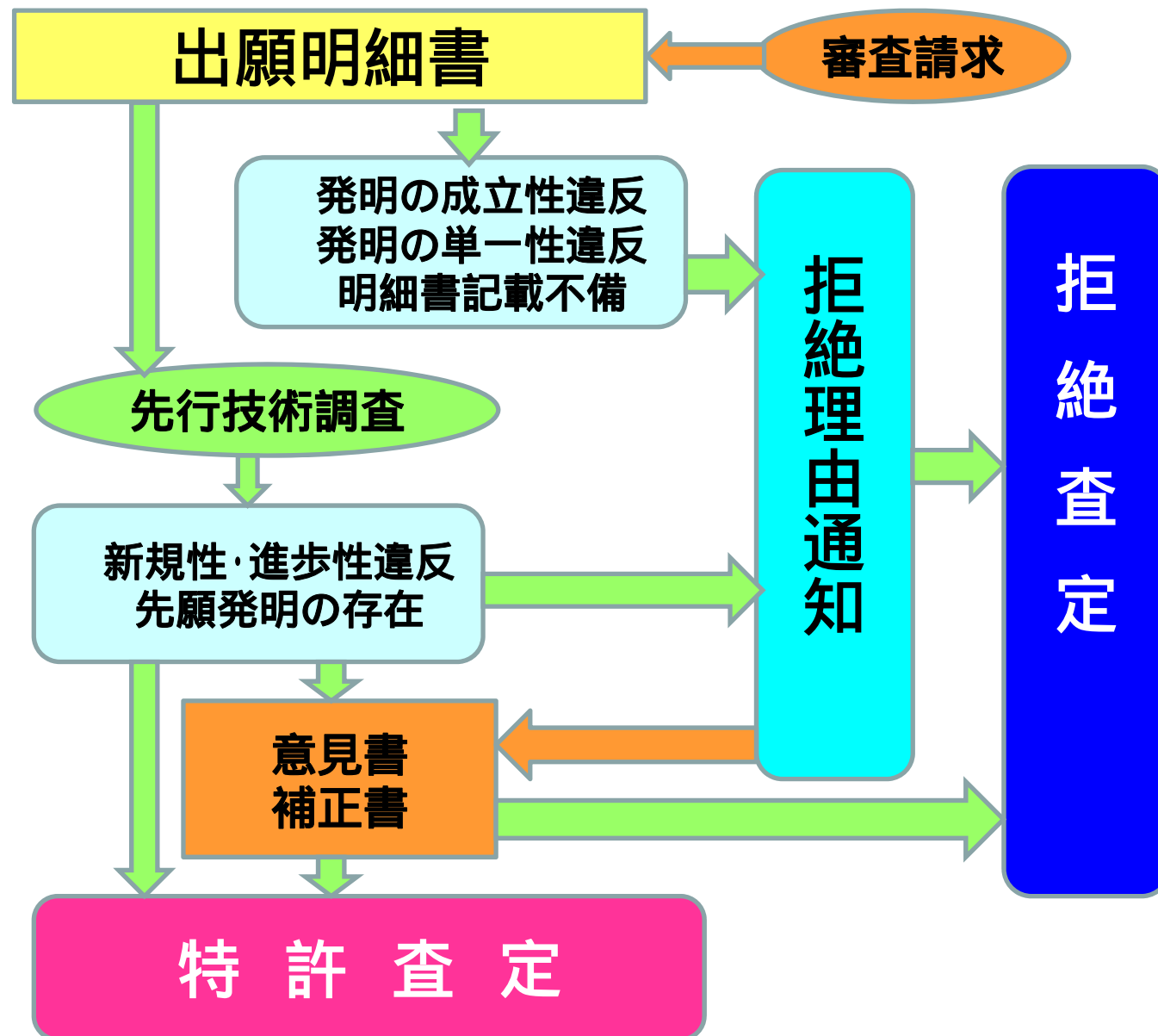
知的財産権概論 第8回

審査と審判

2013年11月20日

弁理士 佐伯裕子

審査官による実体審査



主な拒絶理由

産業上利用できる発明ではない

§ 29 - 1 柱書

発明の単一性を満たさない

§ 37

新規性がない

§ 29 - 1 - 1, 2, 3

進歩性がない

§ 29 - 2

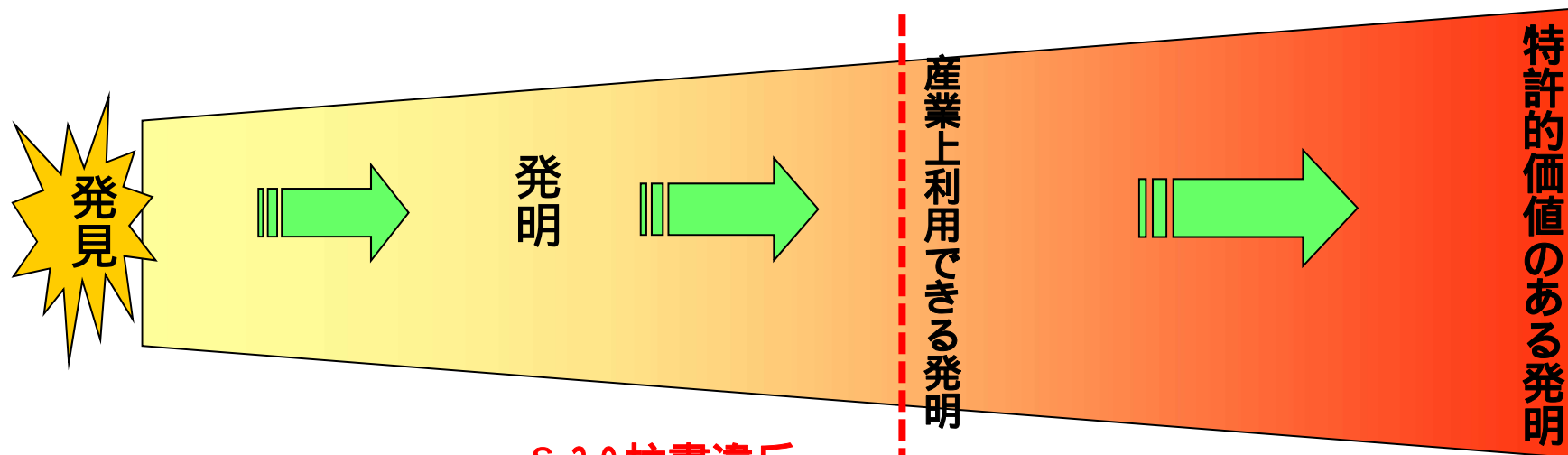
先願がある

§ 39 § 29 の 2

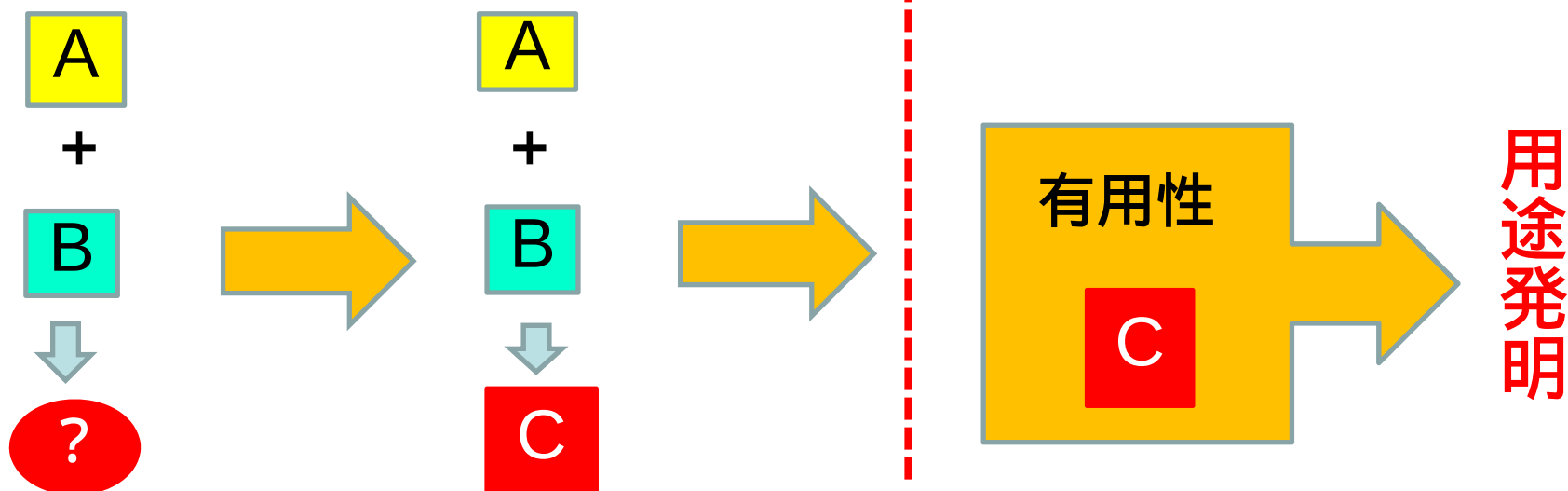
明細書の記載に不備がある

§ 36 - 4 - 1, 6 - 1, 2

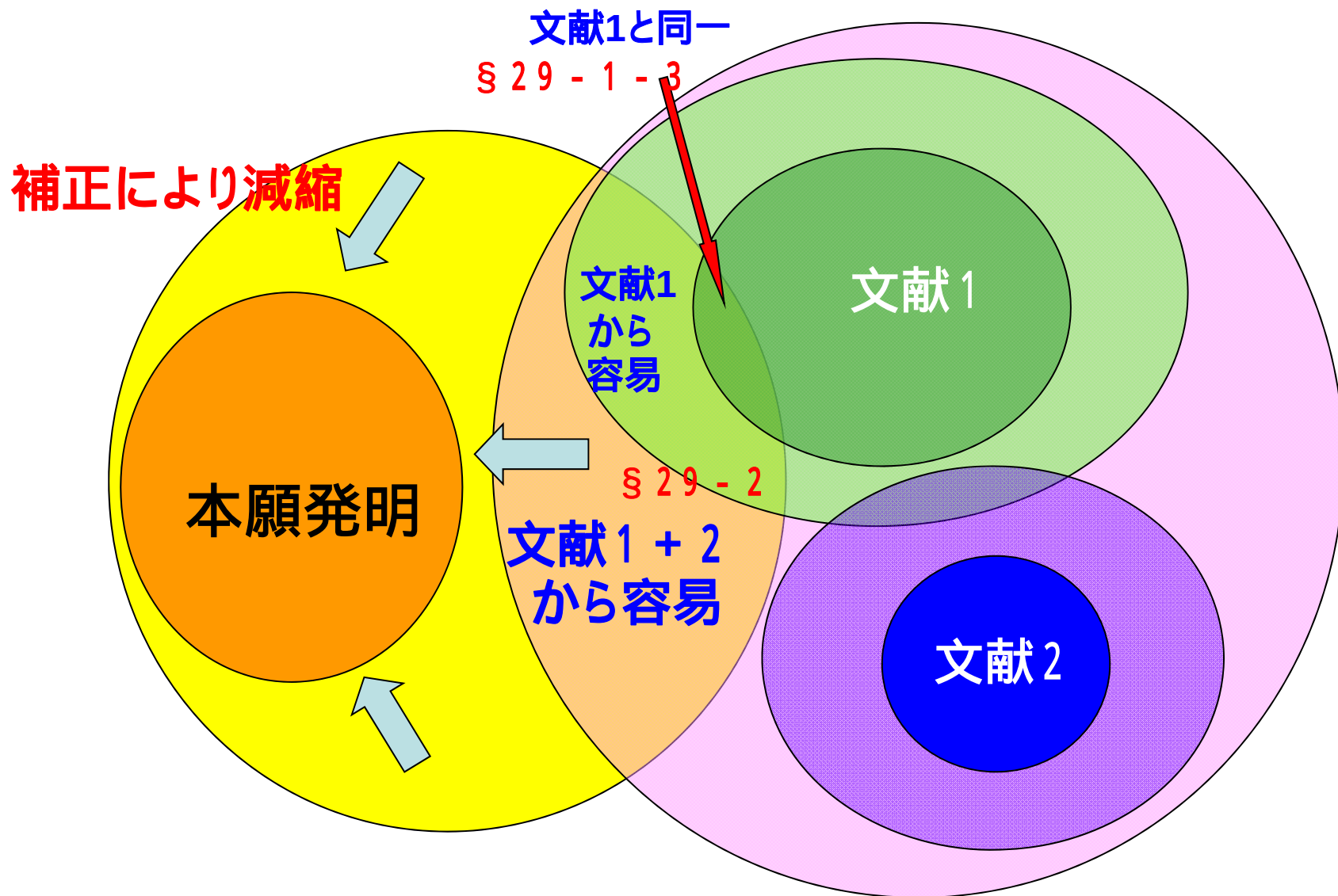
産業上利用できる発明とは



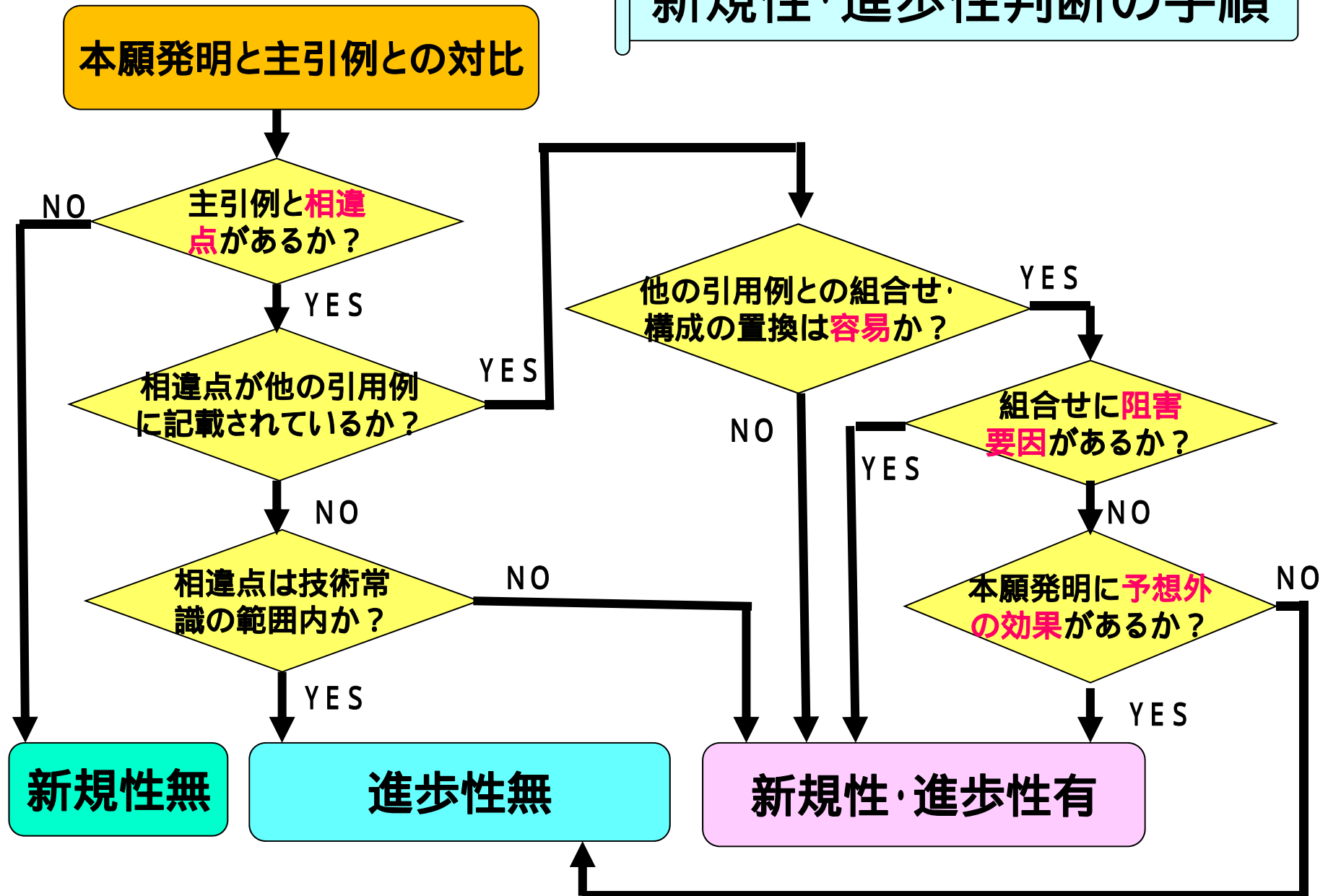
§ 29 柱書違反



新規性と進歩性



新規性・進歩性判断の手順



特許法30条とその注意点

Sの
学会発表
2013.4.1

出願期限
2013.10.1

6か月

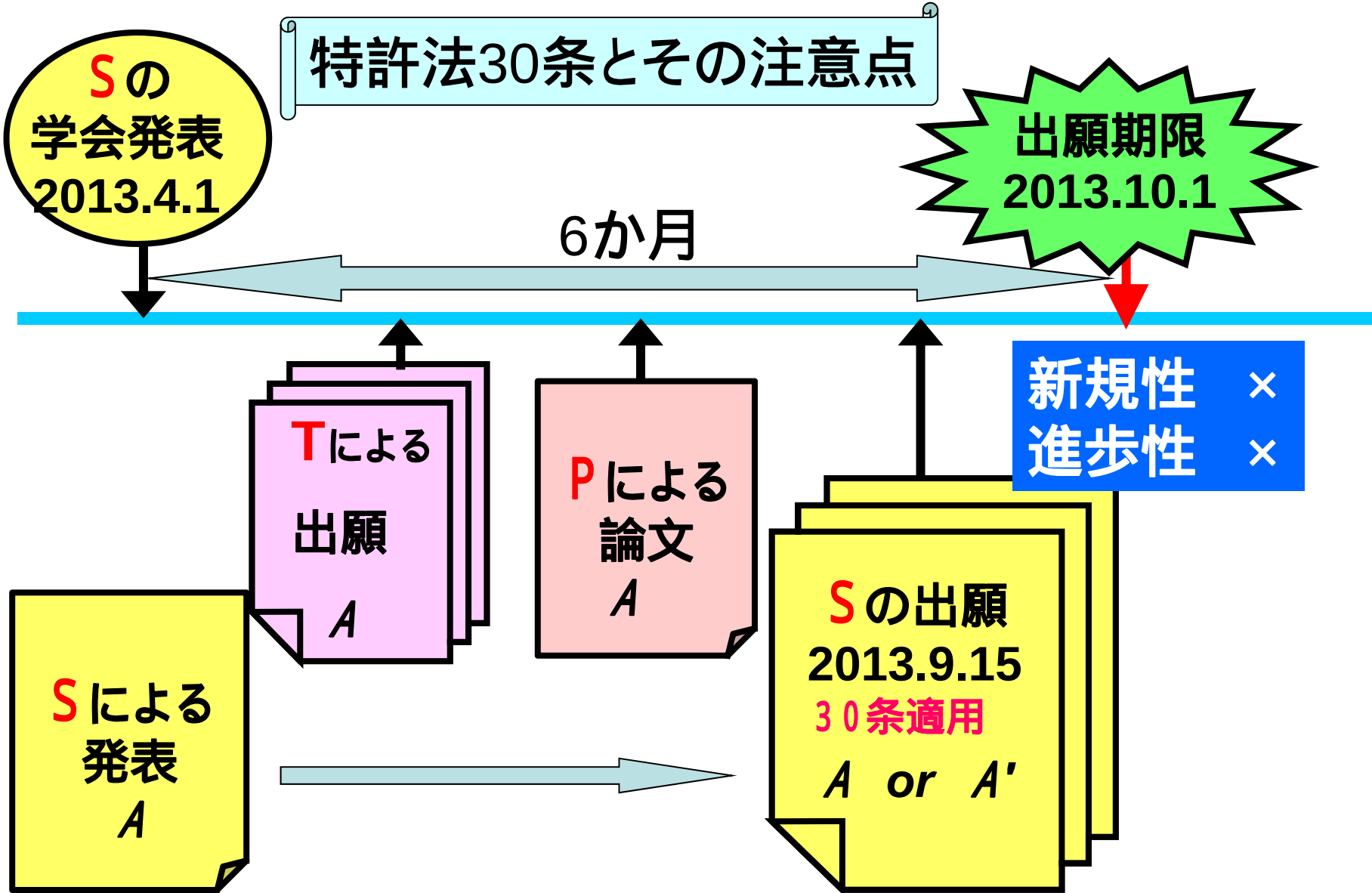
新規性 ×
進歩性 ×

Tによる
出願
A

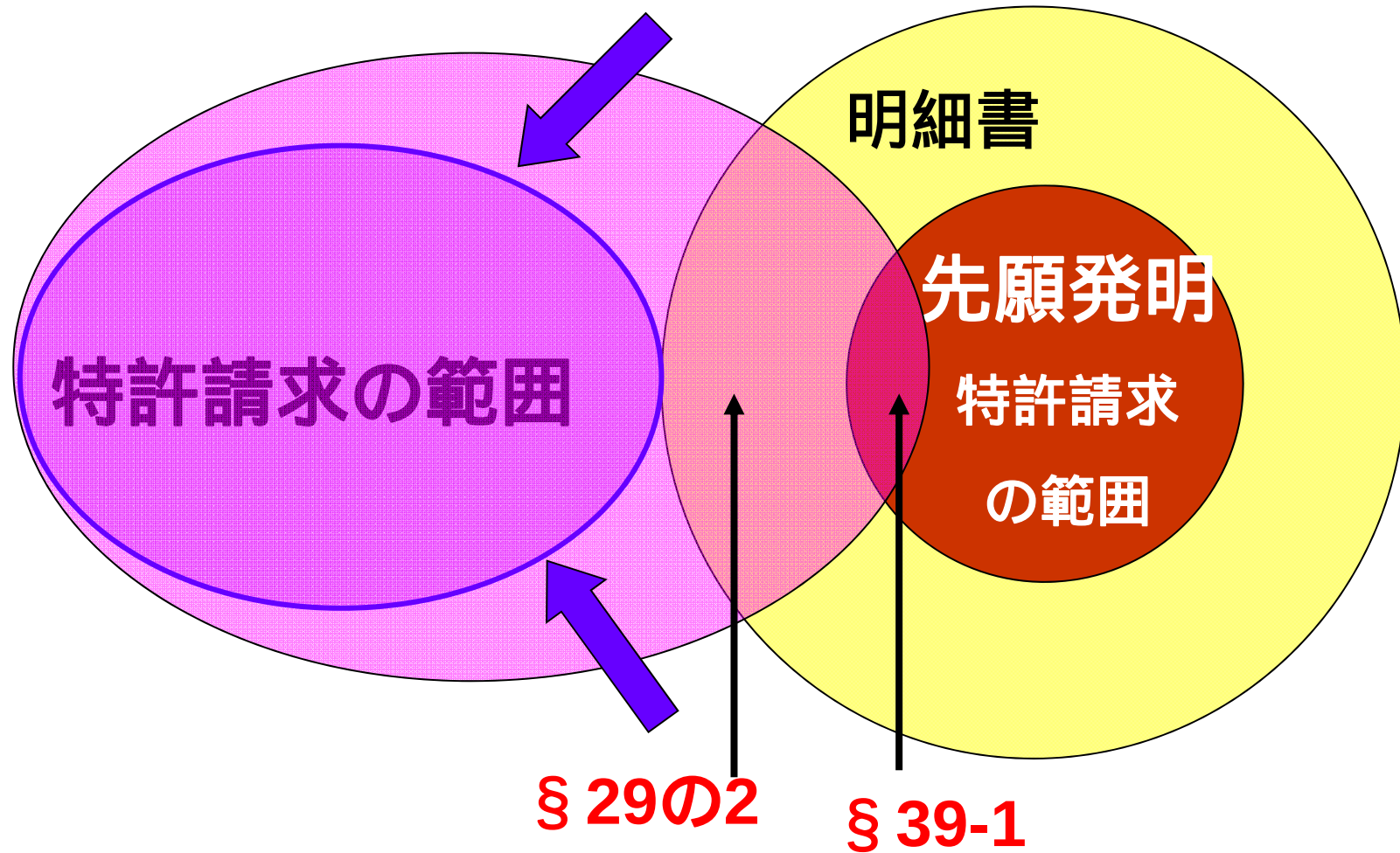
Pによる
論文
A

Sによる
発表
A

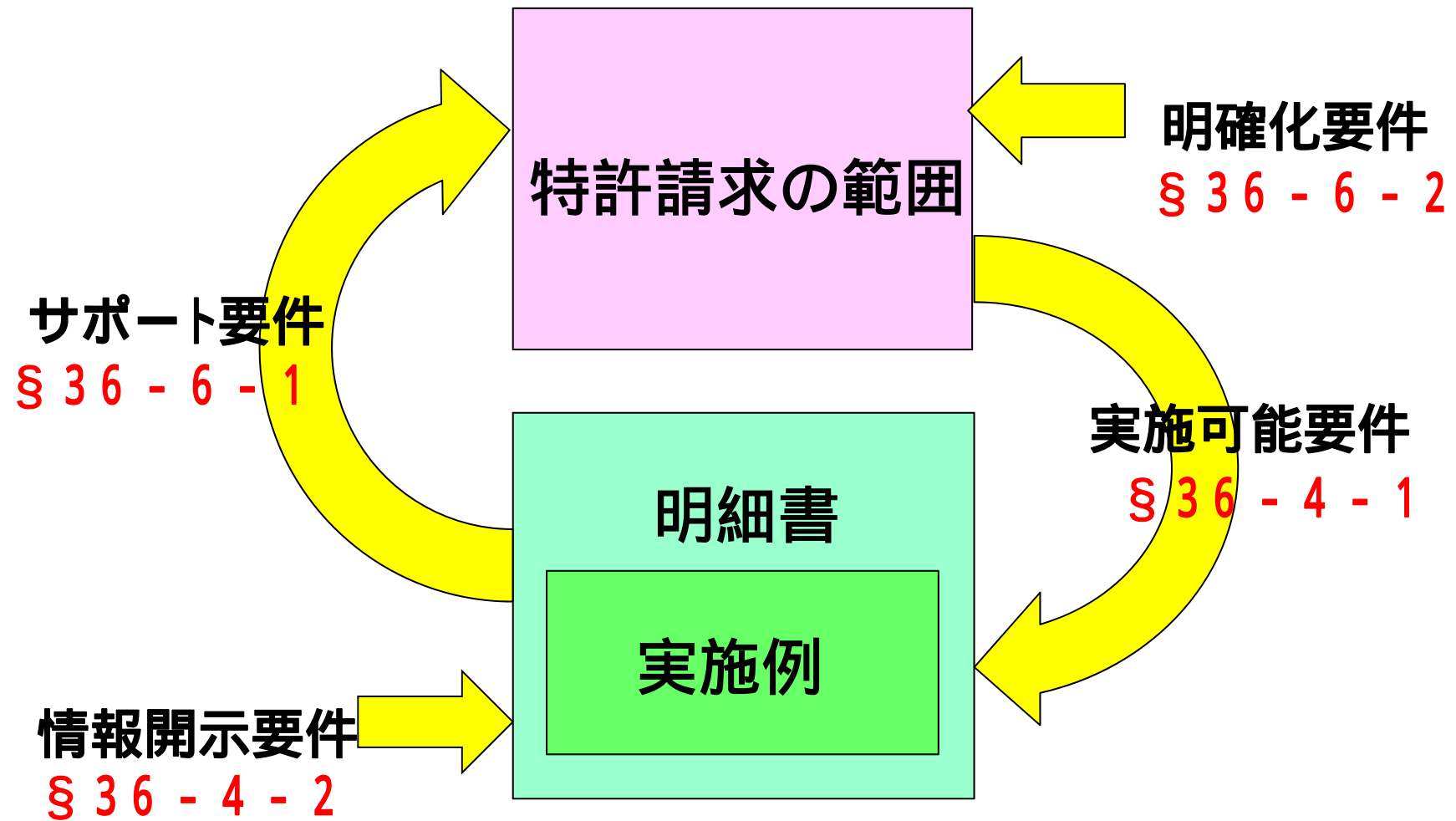
Sの出願
2013.9.15
30条適用
A or A'



先願発明がある場合



特許法第36条に規定される要件

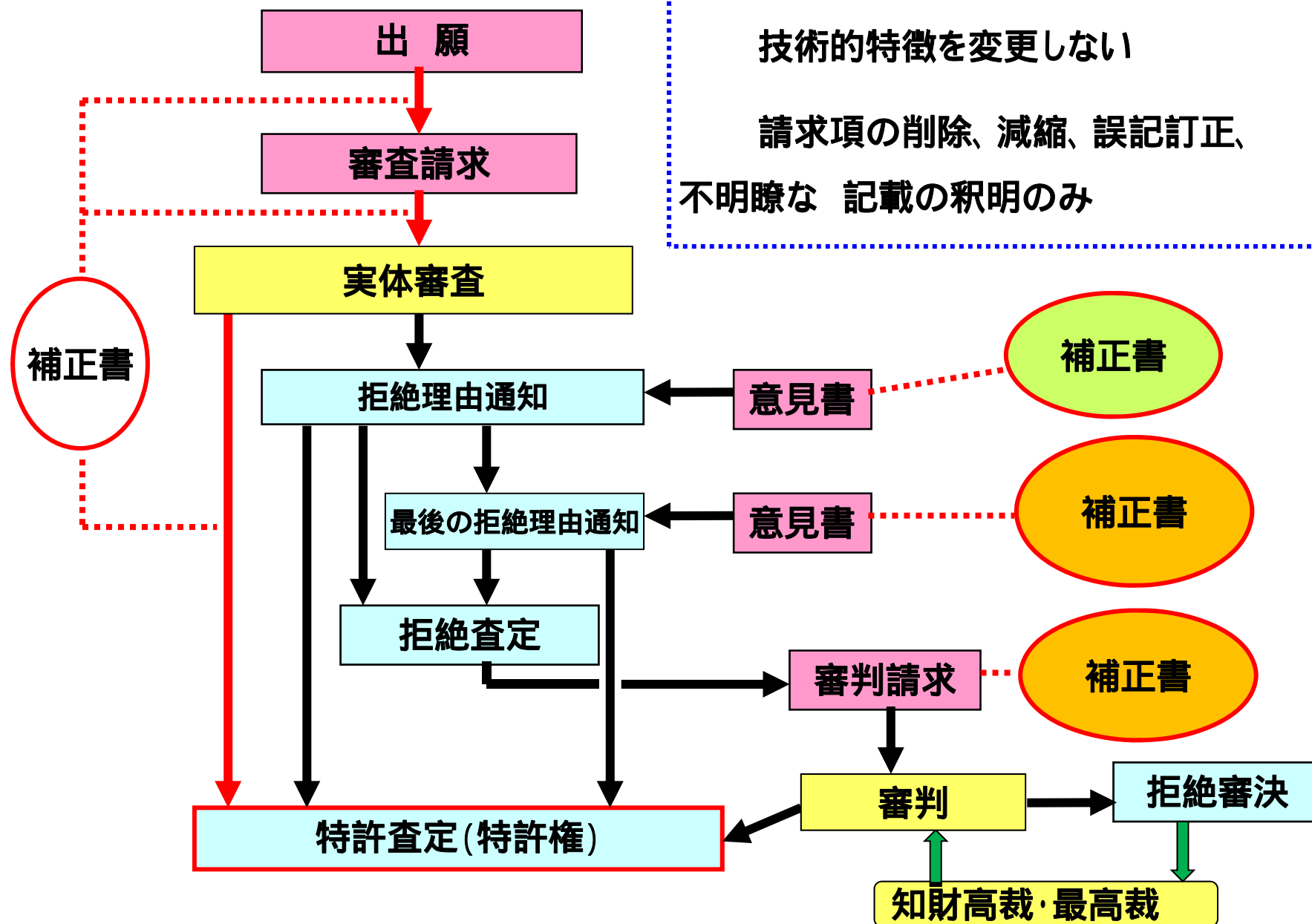


補正の時期と制限

**出願当初明細書等の記載範囲内
技術的特徴を変更しない
請求項の削除、減縮、誤記訂正、
不明瞭な 記載の釈明のみ**

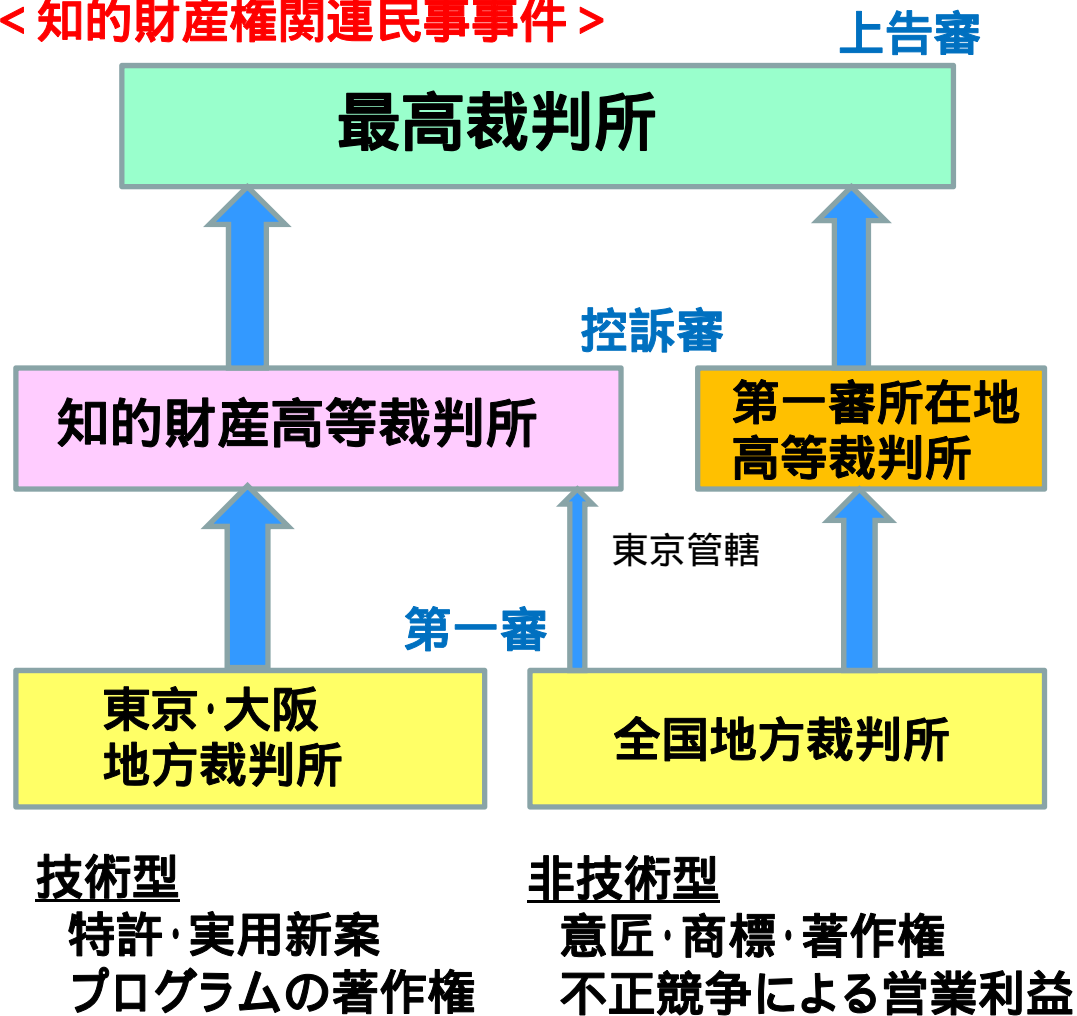
**出願当初明細書等の記載範囲内
技術的特徴を変更しない
請求項の削除、減縮、誤記訂正、
不明瞭な 記載の釈明のみ**

**出願当初明細書等の記載範囲内
技術的特徴を変更しない
請求項の削除、減縮、誤記訂正、
不明瞭な 記載の釈明のみ**



知的財産権関連の裁判

< 知的財産権関連民事事件 >



< 審決取消訴訟 >

